



学校教育目標

自 ら 学 ぶ 子



「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

6月号 令和8年5月29日

小さな変化を見つめ、成長とともに喜ぶ6月に

副校長 北嶋 涼子



私が出勤してまず行うことの一つに、校舎内の見回りがあります。教室を回っていると、掲示物の変化や黒板の板書の工夫、時には落ちているごみの種類や場所からも、その学年やクラスの雰囲気こそと伝わってきます。担任の時には気づけなかった、“学校全体の呼吸”のようなものを、日々感じています。

こうした小さな変化に気づき、丁寧に受け止めることは、子どもたちが安心して学校生活を送るための大切な視点です。本校では、アンケートや面談を通して子どもたちと向き合う機会を設け、教職員全体で支える体制づくりを進めています。また、日頃から子どもたちの小さな変化を丁寧に見取り、学年会などで共有しています。その記録からは、子どもたち一人一人の様子がより具体的に見えてきます。

そんな日々の中で、ふと自分自身の経験を思い出すことがあります。授業研究会の準備をしていたとき、同僚から「大丈夫？心配です。」と声を掛けられたことがありました。その瞬間、胸がぎゅっとして、「自分は何か良くないことをしてしまったのではないか」「教師として力不足なのではないか」と、否定的に受け止めてしまい、気持ちが沈んだことを覚えています。けれど後になって、「心配」には「心配り」「気遣い」といった意味があることを知りました。「あなたのことを気にかけています」という優しい思いが込められた言葉だと気づいたとき、心がふっと軽くなりました。

子どもたちもまた、言葉の受け取り方一つで気持ちが揺れ動くことがあるのではないかと思います。だからこそ、学校全体で日々の小さな変化に目を向け、そっと寄り添う姿勢を大切にしていきたいと考えています。そして、子どもたち自身にも、友達や教師、地域の方など様々な人とのやりとりを通して自分の気持ちを伝える言葉の力を、少しずつ育ててほしいと願っています。

6月初めには、授業参観やタートルズコンサートがあります。日常の中で見つけた小さな変化が、成長という形となって現れる瞬間でもあります。学校と家庭がともに子どもたちの成長を喜び合い、次の一歩を支える大切な機会となることを楽しみにしています。これからも、学校と地域、そして教職員同士のつながりを大切にしながら、子どもたちが安心して学び、挑戦できる環境づくりを進めてまいります。